

二十歳の感想文

安齋 夏未



二十歳を迎えたこの一年は、激しい気候変動の中、何かを達成してもまた新しい週が訪れ、次の目標が現れるような、目まぐるしい毎日を送っていたように感じます。あっという間に二十歳になり責任感を思う反面、どこか変わらないところもあって、同級生のみんなも同じ感覚だったのではないかなと思います。

そんな二十歳は、私にとって非常に思い出深く、今まで継続的に取り組んできたことが形となって認められた年でもありました。それは、私が小学生の時から挑戦してきたピアノのコンクールにてトップカテゴリーである年齢制限のない特級の部で金賞を獲得することができたからです。なかなか結果を残すことができず、周りの素晴らしい方々の後を追いつけていくことに必死でした。ですが、それでも継続的に努力することを通して、徐々に実力が身につき、奨励賞、銅賞、銀賞と入賞するようになり、残すは金

賞というところで、二十歳の幕開けとして、他の部と比べ長いプログラムが課題である特級の部に挑戦することを決めました。それは、自分の実力を思い知らされる期間であり、そのプログラムを仕上げるために最後まで気持ちを高めながら練習をする日々は内なる衝突の連続でしたが、この期間を経て結果を残せたことは、素晴らしい経験だったと思います。

こうして自分がのびのびと頑張ることができたのは、たくさんの方々の支えと応援があったからだと思います。ここまで続けることができ、本当に感謝です。まだまだ落ち着かない日々が続きますが、今自分ができることには最大限努力し、思い残すことなく社会人の一員として羽ばたけるように、これからをより濃い充実したものにしたいと思っています。